



http://www.shinshiyou.com

〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドプレイス509 アネックス5F  
TEL. 045(440)3210 FAX.045(440)3209

発行元/公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会

発行人/会長 小澤 俊通

編集人/神私幼総務部(広報室)

発行/年4回(6月・9月・12月・3月)

発行部数/1700部

# 平成30年度 幼稚園教育経営研修会 開催



## 平成30年度 幼稚園教育経営研修会

「幼児教育無償化にともなう今後の園経営について考える」

公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会

特別対談

「わが園の経営を語る」職員教育&職員採用について  
講師 学校法人野村学園パール幼稚園 園長 野村 良司  
学校法人白水学園 理事長 白水 剛

コーディネーター つくしの幼稚園 理事長・園長 川崎 永

基調講演

「幼児教育の現在と今後」  
講師 学校法人白梅学園 白梅学園大学大学院 特任教授 無藤 隆



八尋有造  
私学振興課長



徳永義宏  
次世代育成課長



基調講演  
無藤 隆 先生



特別対談  
川崎 永 先生



特別対談  
白水 剛 先生



特別対談  
野村良司 先生

### INDEX

2・3

#### 県連設立70周年の1年を振り返って

●公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会 会長 小澤俊通

#### 平成31年度 私学振興費等の概要について

●振興部長 石井和則

6・7

#### 平成30年度 幼稚園教育経営研修会 開催

相模原市幼稚園・認定こども園協会「設立50周年記念 感謝の集い」開催  
小田原私立幼稚園協会「創立70周年記念大会」開催

ケンタガーデン⑤

4・5

#### 研修事業部・研究部活動報告

特別支援教育研修会兼10年経験者研修会  
資質向上セミナー「遊びに向ける保育者のまなざし」  
平成30年度 幼稚園教育理解推進事業(中央協議会)

寄稿 若手後継者のための保育勉強会  
「教育・保育のあり方に新たな方向と課題」

●玉川大学教授・四季の森幼稚園園長 若月芳浩

#### 研修会報告

県連合会設立「70周年史」発刊  
事務局より  
法律相談  
教育相談

8

平成31年度

私学振興費等の概要について

振興部長 石井和則

2月8日(金)県庁新庁舎において平成31年度県予算(案)「私学振興費」の概要について、香川福祉子どもみらい局長から私学関係団体の代表者等へ説明がありました。一般会計全体の当初予算額は1兆8,299億円で、前年度に比べ29億円の減、伸び率でも99.8%という引き続き厳しい予算(案)となっています。4月に知事選が実施されることから、当初予算は骨格予算として編成され、『SDGsの理念』(持続可能な発展目標)に沿って、子ども・子育て支援や未病改善による健康長寿の取り組みなどを着実に推進していく、ラクビーワールドカップや東京2020オリパラの機会を捉えた観光誘客の取り組みなど神奈川から経済のエンジンを回していくという方針です。こうした状況の中、幼稚園関係の経常費補助においては、毎年減額されるのではないかと心配されますが、『園児一人当たりの単価』(県の割戻額)では、6,582円増(前年度比率104.0%)の172,397円となり、年々国の基準単価に近づきつつあることから、将来の幼児教育に対する質の向上や教職員の処遇改善につながり期待感が持てます。内訳は下表のとおり、子ども・子育て支援新制度移行に伴う幼稚園補助対象園の減少により、預かり保育推進費や地域開放推進費などは減額となっています。特別支援教育費補助は対象児25人増となっていますが、県単補助対象者(1人の場合392,000円支給)数が56人増となった一方で、国からの補助対象者(2人以上に対して784,000円支給)数が31人減少したことから減額となりました。教職員割に『在職年数が長い教員への加算』該当教員(通算10年以上)1名につき(年12万円/月1万)が、勤続年数5月1日現在通算9年以上に拡充されました。緊急環境整備費はかなり圧縮がかけられたことで申請園が減少し、大きな減額となりました。

私学振興費の説明に続いて、次世代育成課の当初予算(案)についても説明があり、短時間から徐々にフルタイムに移行する動きを支援する短時間保育士雇上事業や、看護師などの医療的ケア児サポーターの雇用を支援する事業、医療的ケア児を保育するために看護師等の雇用を支援する事業が新設されました。その他、待機児童対策としての小規模保育所などの緊急整備事業や長期休業日等に一時的に預かる「一時預かり事業(幼稚園型)」、幼稚園における2歳児の受け入れなども促進拡充されます。

今年の10月より幼児教育の無償化がスタートし大転換期を迎えますが、私学助成を受ける園、新制度に移行する園それぞれが私学の独自性を発揮し、幼児教育の質の向上と持続的な園経営の発展のためにも、今後も県当局や県議員の皆様にも幼児教育の重要性を更に訴え、来年度の予算要望に反映させていきます。

平成31年度当初予算(案)私学振興費等の概要

Table with 4 columns: 事業, 平成31年度(千円), 対前年度比(%), 幼稚園関係摘要. Rows include 経常費補助(一般), 幼稚園教員復帰支援事業費, 私立幼稚園特別支援教育費補助, etc.

県連設立70周年の一年を振り返り振り返って



公益社団法人 神奈川県私立幼稚園連合会 会長 小澤俊通

早いもので、平成30年度も年度末を迎えました。加盟園におかれましては、卒園の準備と来年度入園児受入準備に追われていることと存じます。県連は、昨年5月新たに就任した役員一同が、全ての事業に積極的に取り組み、幼児教育の振興と「私立幼稚園」の声を各方面へ届けるべく懸命な努力を続けてまいりました。改めて県連設立70周年の一年間を振り返りたいと存じます。

県連設立70周年記念大会

昨年の夏は、異常ともいえる猛暑に見舞われ、各地で熱中症への注意が呼びかけられました。そのような気候の中、8月7日に県連設立70周年の記念大会が開催されました。前期の役員を中心に実行委員会を組織し、およそ一年をかけて準備を進めて参りました。お陰様で、県民ホールに1800名を超える参加者を迎えて、盛大に行うことが出来ました。その後、会場をホテルニューグランドに移して、記念祝賀会を開催し、約240名の来賓・参加者にご来場頂きました。今でも、様々な場面がよみがえり、実行委員会の先生方が駆け回っていたことが思い出されます。

10年に一度の周年行事は、労力も掛かりますが、団体の存在感を高め、次の10年を展望する良い機会だと思えます。全国の都道府県団体を見回しても、神奈川は東京に次いで2番目の大きな団体であり、県内の約9割の私立幼稚園が加盟する「県内唯一の幼児教育責任団体」であります。これからも、先人の偉業に思いを馳せながら、使命感を持って事業を展開していきたいと考えております。実行委員会の先生方及びご参加頂いた先生方に、改めて感謝申し上げます。

「新しい経済対策パッケージ」では、保育の受け皿の拡大を図りつつ、幼児教育の無償化による負担軽減が少子化対策の重要な施策であると書き込まれました。また、実施時期は、消費税率引き上げと同時の本年10月から明記されました。現在、開会中の国会において31年度予算と併せて「無償化法案」が審議されております。幼児教育無償化が混乱なく実施されるよう、市町村と協力して現場での対応もお願いしたいと存じます。

しかし、懸念すべき課題は、「保育」の無償化も含まれていることです。幼児教育も保育も無償化になれば、ごく自然に保育需要は増大するものと思われれます。保育を求める保護者は増えることが想定され、まさに待機児童解消に逆行することとなります。国民の誰から見ても納得の出来る制度となるには、子育て家庭の全てに対する支援が必要で、子育てを経済的な損得でとらえるのではなく、「子どもの最善の利益」を考え、幼児期にどのような環境でどのような教育を受けるべきかを啓蒙していくべきだと考えます。3歳児以上で待機児童がないのは、幼稚園の「預かり保育」が大きな役割を果たしているからです。幼児期の教育環境の大切さを、広く周知すること

が求められていると思います。あらゆる場面で発言を続けたいと考えています。

私学助成の充実

新制度が始まり4年目を迎えました。平成30年度は約60園が移行しており、移行率は30%を超えることになりました。それでも依然として7割近い園が、私学助成の幼稚園として、引き続き運営される事を選択されています。子育て支援法成立の際には、国会の付帯決議として、私学助成の充実がしっかりと決議されています。県連は県内の私学団体とも連携して、神奈川県内の経常費補助金の増額を繰り返し訴えてまいりました。7月から8月にかけて、県議会の主要会派に対し31年度予算要望を続け、福祉子どもみらい局長をはじめ、私学振興課とも何度となく話し合う機会を作り、私立幼稚園の財政基盤を強固にすべくお願いをしてきております。担当部局のご努力もあり、過去4年間は大きく前進したと言えますが、さらに充実させるべく役員一同努力していききたいと思えます。

各部・委員会の活動

県連の5つの部は、事業計画に基づき積極的に事業展開をしてまいりました。総務部は毎月の正副会長会議や運営委員会などの会議開催や事務局の管理など担当して頂きました。財務室は中間決算や監査に対応し、広報室は年4回の会報「神私幼」発行や県連ホームページの更新など、県連運営の屋台骨を支えて頂きました。

振興部は先程述べた予算要望活動を中心として活動し、父母連研修大会や「教育経営研修会」を企画実施され、経営管理部は就職セミナーの支援、後継者研修会、102条園研修会などを企画実施されました。既卒者向けセミナーは、昨年に引き続き県の事業を受託し、実施する協会の就職セミナーを支援する形で行われました。各園の人材確保については苦慮している声が大きくなっており、今後とも県連は人材確保に対する施策を推進する必要があると思えます。研究部・研修事業部は新規採用教員研修から始まり、資質向上セミナー、乳幼児保

育セミナー、特別支援研修、10年経験者研修、免許状更新講習、公開研究保育、中堅教諭研修など実に多彩で豊富な研修・研究活動を進めて頂きました。特に新規採用教員研修や免許状更新講習などでは、朝から一日中、部員の皆様にご活躍を頂きました。また、今年度も新制度に関わる諸問題を話し合う「新制度担当特別委員会」を設置致しました。特別委員会では、毎月のように情報交換が行われ、各地区協会へ最新の情報をお届けするようご努力頂きました。

新制度移行園に対する教職員の処遇改善は、加算の条件として「キャリアアップ研修」の受講が義務づけられており、特別委員会では8月下旬に2日間に亘り、研修会を実施致しました。研修申し込みはすぐに定員に達し、待ち望んでおられた研修会であると再確認致しました。引き続き、「キャリアアップ研修」を31年度の事業に位置づけるべく検討を進めてまいります。各部や委員会の事業や実績をとでも限られた文章の中では書き切れませんが、部長・室長・次長・委員長を始めとする各部部員の皆様のご労苦に対し、厚く御礼を申し上げます。

園児数の減少に歯止めがかかりません。毎年のように、園児数が減り続けています。各園の運営に厳しさが増していくことは避けられません。県連の財政も園児数を基本とする収入に依存しており、どのように財政の健全化を進めるか議論しております。長期的な視野からも、希望あふれる方策を見出していきたいと思えます。会長を拝命してから、いつも「県連としての役割をいかに果たせるか」「どこまで

加盟園の声を行政や議会関係者に届けられているか」「自問自答の毎日です。私一人の能力には限界がありますので、信頼する副会長や役員の皆様と議論を深めながら、少しでも加盟園のお役に立てるよう努力してまいりたいと存じます。引き続き、加盟各園のご支援とご協力をお願い申し上げます。

# 研修事業部・研究部活動報告

特別支援教育研修会兼10年経験者研修会

講師／上原芳枝先生

## 気になる子を どう育てるか

### 特別支援教育研修会

特別支援教育研修会は、5月より全5回行いました。支援とは、「願ってはいけない。慣れてはいけない。あからさまに別行動をさせるものではない。あからさまに優遇されることでもない。」



気になる言動を起こす子どもに対して、「どうしてあざわらふしでも集団の中にいられるの? どうしてあざわらふしここで力を発揮できるの?」という事を考え、提示することが支援です。

支援をするにあたって、まず「先生がその子どもの気になる具体的な場面を切り取り、気になる言動をチョイスしていく事で、子どもが何に困っているかを探り、困らないようにするための手立てを考えることです。」というお話があり、

- 第1回では、気になる言動のあげ方・整理の仕方
- 第2回では、気になる言動の理由は、脳機能の視点で見ないと支援にはならない
- 第3回では、集団の展開
- 第4回では、要因の一つ「環境刺激の処理困難」への対応

第5回では、

「横槍情報の処理困難によるパニック」という要因について

を学びました。「支援とは関わりではない。」「何故このような状態になってしまったのか」という要因を踏まえて、本人のコントロールをしてあげることです。」という事を繰り返し先生が話してくださいました。

環境刺激を下げるという支援には3つあり、①空間の設定 ②時間のラグ・場所のラグ ③意識のカプセル」このどれを使うかを考えることが、私たち保育者の支援であり、私たちが目の前にする子ども達に「あなたはなに困っているの?」という眼差しでその子どもを理解し、その子どもに合った環境の配慮や、関わり方の配慮をすることで、子ども集団の中で自分の力を発揮できるようにしてあげるといふ事を学びました。

次年度もこの研修を行っていきます。学びの多い研修だと思しますので、皆様のご参加をお待ちしております。

(文責／研修事業部 櫻井つた江)

資質向上セミナー「遊びにける保育者のまなざし」

## 子ども・保育への着目点をより広げ、深めるために

今回の資質向上セミナーは、東京家政大学教授の岸井慶子先生を講師に開催されました。子どもの姿の写真やビデオの場面素

材を通して意見交換し、「遊びにける保育者のまなざし」をテーマに講演いただきました。

〔研修に用いた素材〕

- ① 保育実践の写真
- ② クリスマスリースつくり
- ③ 色水あそび
- ④ フランスの幼小一貫校の校庭記念樹
- ⑤ ある園の雨の日の戸外遊び
- ⑥ VTR 「綱渡り」
- ⑦ VTR 「保育を見る目」
- ⑧ VTR 「光った水とろうろう」
- ⑨ VTR 「レストランのメニューに値段をつける」
- ⑩ グループディスカッション

各参加者が写真・保育実践VTRを観て、12グループに分かれて自由に感想や意見を交換し合いました。映像に対して、自園での実践ができる、安全管理が気になるといった指摘をするのではなく、子どもの世界観や保育者の眼差しのあり方という観点から場面を見つめてほしいとの投げかけを踏まえ、参加者同士の率直な意見を交わしました。討議後、3グループが内容を発表し、全体共有を行いました。各グループからは喧嘩の場面に對してどこまで寛容的に認めるのか、活動について普段やってはいけないかと思いついている場面があるのではないかなど、日々の保育の中で想定されるような実践的な話題がありました。

《全体のまとめ》

保育実践VTRを通して保育者と子どもたちとの関係性と保育について、また保育場面における保育者と子どもの意識や意図について考え、生活・あそび・活動の連続性や環境や人間関係等の変化に注視する様々なきっかけになるということでした。

最後に、岸井先生から「保育者が悩ましい」と子どもたちの姿や保育の質は高いと子どもたちの育ちの姿や保育の質は高まらない」という問いが投げかけられました。保育者が課題・問題意識を常に持ち、今後の保育実践をしていくことが、「遊びにける保育者のまなざし」を深めていく唯一の方法であることを今回の研修を通して改めて感じることができました。

(文責／研究部 小笠原 裕)

平成30年度 幼稚園教育理解推進事業(中央協議会)

第6分科会(預かり保育)

(協議主題)

## 幼稚園における教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動について

12月13・14日の2日間にわたり、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、幼稚園教育理解推進事業(中央協議会)が開催されました。

2日目の分科会では協議主題について、川崎市にある宮前幼稚園・宮前おひさまこども園の亀ヶ谷元讓先生より神奈川県川崎市の研究報告がありました。

教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動は、午後の時間のみを考えるのではなく、1日の流れ全体を考えると重要であり、幼児にとって充実した無理のない1日の流れをつくりだすことを目標とし、教育課程に係る教育時間【午前の保育】を担当する保育者と、預かり保育【午後の保育】を担当する保育者が緊密に連携する方法を探っていました。

子どもたちにとって充実した無理のない1日の流れをつくりだすためには、子どもの心と体の状態について午前の担当者や午後の担当者が緊密な連携を図り、共有・把握することが何よりも大切であります。そして、子どもの実態を把握した上での教育目標の策定や計画の作成が求められます。また、子どもたちの生活が充実していくには、幼児期にふさわしいあそびを中心とした活動が大切であり、その際に園内だけでなく地域にも視点を広げ、地域資源を活用し、子どもたちの多様な経験に繋がるように保育者が意識することが大切です。

最後に、今回の研究では1号の預かり保育と、2号認定の午後以降を過ごす子どもたちを一括りとして考えましたが、1・2号の違い等についても検討していきたいという課題がありました。

(文責／研究部次長 久富多賀子)

## 研修会報告

開催日	研修名	会場	講師	テーマ	参加者数
12/10(月)	特別支援教育研修会⑤	かながわようちえん会館	特定非営利活動法人発達支援機関リソースセンターone代表理事 臨床発達心理士 上原 芳枝 先生	「集団の場で子どもが求める具体的対応② -発達特性をふまえた臨機応変な対応-」	77名
12/15(金)	公開研究保育研修会	かながわようちえん会館	鎌倉女子大学短期大学部教授 佐藤 康富 先生	「保育の質の向上と保育組織の活性化を目指して」	27名
12/20(木)	資質向上セミナー	かながわようちえん会館	東京家政大学教授 岸井 慶子 先生	「遊びにける保育者のまなざし」	68名
2/2(土)	幼稚園教育経営研修会 「幼児教育無償化にともなう今後の園経営について考える」	かながわようちえん会館	【基調講演】 白梅学園大学大学院特任教授 無藤 隆 先生	「幼児教育の現在と今後」	91人
			【特別対談】 学校法人野村学園パール幼稚園園長 野村 良司 先生 学校法人白水学園理事長 白水 剛 先生 コーディネーター つくしの幼稚園理事長・園長 川崎 永 先生	「わが園の経営を語る～職員教育&職員採用について～」	
2/19(火)	若手後継者のための勉強会	かながわようちえん会館	玉川大学教授・四季の森幼稚園園長 若月 芳浩 先生	「若手後継者の役割と今後の保育の見通しを考える」	43人
2/27(水)	102系園研修会	かながわようちえん会館	全日本私立幼稚園連合会経営研究委員会 委員長・清瀬ゆりかご幼稚園理事長 内野 光裕 先生	「幼稚園を取り巻く環境」	30人(予定)

### 寄稿

## 若手後継者のための保育勉強会 「教育・保育のあり方に新たな方向と課題」

若手後継者のための保育勉強会 玉川大学教授・四季の森幼稚園園長 若月 芳浩



平成30年度も刺激的な勉強会に多くの方に出席していただきました。今年も新しい幼稚園教育要領等が施行された事で、自園の教育・保育をどのような方向で見直す必要があるかについて学ぶ機会を多く持ちました。

初回は職場における「同僚性」の重要性を語り合い、先生方が楽しく仕事に取り組むためにはどのような工夫が必要であるかについて参加者と語り合いました。特に園内研修のあり方や教育・保育の「見える化」のために必要な事などが話題となりました。

第2回目は玉川大学准教授、東一の江幼稚園園長の田澤里喜先生に自園の保育の見直しについて熱く語っていただきました。子どもの遊びを大切にすることの意義と具現化するために起きる葛藤のプロセスは参加した先生方の心に刺さりました。

9月の外部視察では静岡県富士宮市の野中こども園に伺いました。建築家の仙田満氏が最初に手がけた保育園の建物を新しくした事で、新たな保育の方向性を指す先生方の語りや環境、そして何よりも子どもが自然の中でのびのびと遊ぶことの意味を発見することができました。

11月の勉強会では栃木県佐野市の認定こども園あかみ幼稚園の理事長である中山昌樹先生に登壇

いただき、理事長としてのビジョンを実現するまでのプロセスについて丁寧な語り合いました。大変感銘を受ける勉強会でした。

今年度も学びの多い勉強会を実施することができました。しかし、参加者の園にはまだまだ課題があることも見えてきました。私立の幼稚園・認定こども園には建学の精神を大切にしながら、設置者や園長などの理念の元で教育・保育を作り上げてきた経緯があります。それはとても大切な事ではあるのですが、時代の背景や保護者のニーズ、子どもたちの実現のためには保育の見直しも必要になります。新しい方向を探るだけでなく、不易な事を大切にしつつ、新たな教育・保育のあり方を具現化するには多くの葛藤が生れます。葛藤を乗り越えつつ、子どもの大切な育ちにつながる保育の質的な向上がこれからは更に求められます。

31年度も継続する勉強会ですので、まずは園として出来る事を探り、時代を担う子どもを育てるために必要な教育・保育のあり方について切磋琢磨出来る勉強会を実施していきたいと考えております。次年度も皆様の参加をお待ちしています。

# ケンタ・ガーツ<sup>5</sup>ビッグ錠



©ビッグ錠



特別対談では野村・白水両先生から、園を取り巻く地域の情報等を伺いました。その中で、勤務3年未満の職員の離職、職員採用に悩んでいると発言があり、その対応は、一早からの採用活動、中途退職者の出身校に対してフォロー、協会主催の就職説明会に参加をしているとのことでした。また課題として、保育所だけへの処遇改善費・住宅手当、養成校の教育方針の転換があげられました。

採用活動の一環として、教育実習生にアンケートを取ると、「実習ノートの記入がキツイ」が一番で、そのこ

とを要求する園は就職先として選ばないことが分かったので、実習生から選ばれる園になるため、16時から実習ノートの記入時間を設ける、雑務をさせないや、就職者向けパンフレットを作成するとの話がありました。

また、理事長・園長世代との価値観の違いがある中で、過去の成功体験ではなく、何かに貢献している実感、行動等の意味や納得が必要で、価値観の共有、家族的繋がりが勤続へのモチベーションになるのではと語られました。

園児募集に関しては無償化により園児数の増加になるかもしれないが、園の教育方針をよく説明し、園風を維持することに重点を置いて経営を行っていきたいとのことでした。教育方針と乖離した意見をもつ保護者が入園した場合、その対応次第で職員の大量離職者を招く恐れがあり、近い体験を経験したことがあるが、園長が対応してくれ、ありがたかったと話されました。

最後に、園経営は厳しい面もあるが、職員が一人の人間として成長する姿を感じられた時や、大きな行事を盛会に行うことが出来た喜びを感じられるうれしさがあるとのこと。ちなみに園長としての目標は、川崎先生だそうです。

(文責/振興部次長 仁藤一成)

## 特別対談

### 「わが園の経営を語る」職員教育&職員採用について

講師/野村良司先生・白水 剛先生 コーディネーター/川崎 永先生



無藤先生は中央教育審議会委員、内閣府の子ども・子育て会議会長もされ、今回の教育要領の改訂には大きく関わってきた方です。保育所は「カリキュラムマネジメント」や「学び」という言葉を使っていない、この2点が幼児教育の独自性にあるということから話が始まりました。

また幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領が3歳以上の教育について同じ方向を向いていて、日本の教育が育成すべき資質・能力の3つの柱のもと、幼児教育から高等教育まで一貫性、連

続性を促していることを話されました。そのことを踏まえつつ、今回の講演では、幼児期と学童期の資質・能力は違うという前提で、幼児期の資質・能力を表した10項目について、そのいくつかを事例を通してわかりやすく解説していただきました。そしてそれが小学校のスタートカリキュラムにつながっていくことで、小学校教育では幼稚園の領域を教科に繋げていく工夫が問われている。子どもの成長を育むためには小学校へのアピールと、小学校から幼児教育、幼稚園から小学校へと双方が学ぶ姿勢の大切さを話していただきました。それに伴い学習指導要録の書式が変わって、その書き方のキーワード方式についても話していただきました。

基本的には幼児を肯定的に見て、その良さを小学校に繋げていくことが重要で、スタートカリキュラムの大切なことは「10の姿」を踏まえて、小学校入学に際しては、幼児期の遊びを通して行った活動をどう教科に結びつけていくかが重要になっていく。小学校の環境としては子ども同士話し合う場を設け、それを保障する環境を整えることが大事で、いろいろな施設からいろいろな価値観を持った子どもたちが融合できる環境の大切さも話しておられました。

(文責/研究部長 佐伯妙有)

# 平成30年度 幼稚園教育経営研修会 開催

## 「幼児教育無償化にともなう今後の園経営について考える」

【とき】平成31年2月2日(土) 【ところ】かながわようちえん会館

## 基調講演

### 「幼児教育の現在と今後」

講師/無藤 隆先生

無藤先生は中央教育審議会委員、内閣府の子ども・子育て会議会長もされ、今回の教育要領の改訂には大きく関わってきた方です。保育所は「カリキュラムマネジメント」や「学び」という言葉を使っていない、この2点が幼児教育の独自性にあるということから話が始まりました。

また幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領が3歳以上の教育について同じ方向を向いていて、日本の教育が育成すべき資質・能力の3つの柱のもと、幼児教育から高等教育まで一貫性、連



## 相模原市幼稚園・認定こども園協会 「設立50周年記念 感謝の集い」開催

とき：平成31年1月25日(金) ところ：相模原市民会館 ホール

一般社団法人相模原市幼稚園・認定こども園協会は今年、設立50周年を迎え、去る1月25日、相模原市民会館にて「設立50周年記念 感謝の集い」を行いました。来賓47名、教職員598名、保護者152名の皆様にご出席いただき、盛況裡の実施となりました。第一部・記念講演ではチベット人女性声楽家・ハイマーヤンジンさんをお招きし、チベットの寒村に生まれ、刻苦勉強して進学した中国の大学で受けた激しい差別、後に夫となる日本人との出会い等、巧みな大阪弁による沢山の笑いの中にも、深く心を動かされる講演となりました。第二部・記念式典では挨拶、感謝状贈呈の後、来賓の皆様から祝辞をいただきました。夕刻からのレセプションにも223名の皆様に参加され、来場者同士、旧交を温めながら、楽しい懇談のひと時を過ごしました。

(広報室 吉村文比古)

## 小田原私立幼稚園協会 「創立70周年記念大会」開催

とき：平成31年1月30日(水) ところ：小田原市民会館 大ホール

ご来賓20名、年長組親子510組、教職員90名で行われました。第一部の式典では挨拶・ご祝辞・永年勤続者表彰・保護者代表による「大会宣言」の後、加盟12園の年長組で準備をした70周年を祝う「サプライズムービー」を来賓の皆様と共に鑑賞しました。第二部では、アトラクションとして地元出身のアーティストを中心としたコンサートを楽しみました。

第三部は午後には教職員が出席し、教育研究大会を行いました。研究部の研究報告及び研究部助言者でいらっしゃる若月芳浩先生(玉川大学教授)のご講演によって学びを深めました。共にこの時を祝ってくださった皆様に感謝申し上げ、これからも、子どもたちの未来のために力を尽くしていこうとの思いを新たにしたい一日でした。

(広報室 島田美緒)



## 県連合会設立「70周年史」発刊



70周年を節目とし記念誌を発刊いたします。皆様にはご多忙の中、掲載記事となるいくつもの情報を提供していただきまして有難うございました。また、多くの関係者、機関の皆様のご参画により、形あるものとして発刊にたどり着けそうです。

70年という長い歴史を踏まえ、今、平成から新年号に移り変わろうとしています。

幼児教育は大きな変革の時を迎えている中、各園におかれましてもそれぞれの歴史を積み重ね、大いに発展されていくことを祈念しています。

最後に、記念誌委員や事務局の方々にご尽力を頂いたことも皆様に報告申し上げます。(記念誌委員長 高野正基)

### 事務局より

#### 就任・退任のお知らせ



伊豫由紀

齊藤英里

昨年11月よりお世話になっております伊豫由紀と申します。主に総務部を担当いたします。皆様のお力になれるよう頑張っていきたいと思っておりますので、皆様のご指導、ご助言をお願いいたします。

伊豫由紀

県連で過ごした9年7カ月は、私にとってとても幸せな時間でした。先生方にご指導していただいたことは一生の宝物です。本当にありがとうございました。3月まで、精いっぱい勤めさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

齊藤英里

#### メールアドレスが変更になりました

県連合会のメールアドレスが変更になりました。

新しいメールアドレスは下記の通りです。

事務局代表 daihyo@shinshiyou.com

- 事務局長 福地 賢一 kyokucho@shinshiyou.com
- 総務部担当 伊豫 由紀 soumu@shinshiyou.com
- 研修事業部担当 森川 久美 kenshu@shinshiyou.com
- 研究部担当 渋谷 芽衣 kenkyu@shinshiyou.com
- 経営管理部担当 今野 亜美 keikan@shinshiyou.com

### 法律相談



#### R&G横浜法律事務所

横浜市中区住吉町1-2(スカーフ会館3階)

TEL.045-671-9654

県連窓口担当 西村 将樹 弁護士



### 指導の適切性について

教諭の発言によって子どもや保護者が精神的苦痛を受けたと幼稚園に対して主張してくるケースがあり、中にはそれを証明するための資料として医師の診断書等が提出されることもあります。幼稚園としては冷静に対応する必要があり、特に保護者や子どもの主観的感情を基準にして指導の適切性を判断することは、教諭にとって予測不可能な法的リスクをもたらすことになりかねませんので注意が必要です。

教諭の指導が適切であったかどうかを判断する客観的な基準を探することは簡単ではありませんが、①当該幼児や保護者以外の者が受けても精神的苦痛を被る可能性があった指導・発言であったのか、②他の教諭の視点から考えてみた場合でも適切であった(許容される範囲内)といえるのか、という両面から判断すると一定の客観性が担保できるのではないかと考えます。

なお、言葉の暴力は「体罰」に該当するとして処分を行う自治体もあるようですが、それは拡大解釈の懸念があり、適切な指導であったかどうかを問題にすることが一般的であると思います。

#### 平成30年 法律相談件数

相談内容	労務	10
	経営	6
	保護者	10
	事故	1
	その他	4
合計		31

### 教育相談

#### 相談の申し込み

電話・ホームページから事務局へ申し込みください。

TEL.045-440-3210

<http://www.shinshiyou.com>

教育相談員 鈴木 敦子 先生(臨床発達心理士)



### 生まれた時からこうなんです：子どもにはあらがえない家庭環境

学校でのお話です。授業中にフラフラになり和室で寝てしまう女子がいました。病的な気配を感じた学校は専門医を探し出し、予約の取り方も一覧表にして保護者に渡しましたが、母親が動きません。そしてその女子の状態はそのままです。子どもは環境を選んで生まれてくる訳にはいきません。先生方がここまで丁寧な対応をしても実を結ばないこともあります。でもだからといって「あのうちでは仕方がない」とさじを投げないで下さい。もしかしたら将来的にチャンスが転がっているかもしれません。無駄かもしれませんが、スタンバイは必要なのです。

#### 平成30年 教育相談件数

	電話	面談	出張	計
1月	4	2	3	9
2月	4	1	4	9
3月	0	1	4	5
4月	3	3	0	6
5月	2	3	9	14
6月	1	2	1	4
7月	2	2	3	7
8月	2	1	0	3
9月	3	1	12	16
10月	1	2	34	37
11月	1	2	2	5
12月	2	0	5	7
計	25	20	77	122

### 編集後記

From the Public Relations Section

先日、劇団を園に呼んで「蟻とキリギリス」を観ました。今を楽しく生きるキリギリスと、毎日動き続ける蟻と両極端な生き方ですが、日頃、園児達に対し「あ～おもしろかった」という一瞬の感動だけでなく、力を合わせて頑張る大切さを感じられるように、中身の充実をもっと考えていかなければいけないと思いました。

近隣の小学校がインフルエンザのため、学級閉鎖や学年閉鎖になっています。自園でも発表会を間近に控え、とても気になる時期になってきました。

1年の総仕上げを行う大切な時期ですが、みなさまも健康にご自愛され無事に乗り切って頂けたらと思います。(広報室員 宮田昌一)

**委託給食**

学校・ヘルスクア  
幼稚園・保育園  
認定こども園

**仕出し**

冠婚葬祭  
パーティー

**弁当**

幼稚園弁当  
一般・会議用弁当

**燃料部門**

プロパンガス  
飲料水宅配



## 株式会社 安田物産

〒242-0018 神奈川県大和市深見西2-6-28  
 電話 (046)261-9700 FAX (046)264-3511  
<http://www.yasuda-bussan.co.jp/>  
 瀬谷営業所 電話 (045)301-1711